



三木町

No.137

2011.October

議会だより

<http://www.town.miki.lg.jp/>



つなひきヨイショ

9月定例議会

- 議案を審議 2~3
- 一般質問 4~10
7人が登壇・町長に見解を求める
- 委員会レポート 12~13
- 元気なグループ紹介 16
『はまなす会』



推奨花木：キンモクセイ



▲本会議採決の様様

9月 定例議会

筒井町長就任二年の成果と課題を問う

平成23年第3回定例議会は、9月7日から14日までの8日間の日程で開会された。初日には、災害対応特殊水槽付きポンプ自動車の購入契約や、三木町宮土地改良事業など6議案が上程された。また、平成22年度の一般会計、各特別会計および水道事業会計の決算が提出され、各決算を審査する特別委員会を設置した。

一般質問では、7人が質問に立ち、自治会組織の充実、障がい者施策に民間活力導入、三木町東日本大震災被災児童・生徒ホームステイ事業、介護保険改正問題などについて、町長の見解を求めた。

今期定例議会に提案された6議案を可決した。また、人事案件では、任期満了に伴う教育委員会委員1人の任命に同意し閉会した。

平成23年度一般会計補正予算（第3号・第4号）

専決処分を承認

問 5月29日発生のお台風2号による農地・農業用施設の災害復旧申請の周知は。

答 産業振興課長
周知はしていない。

自治総合センター コミュニティ助成金の 詳細と、今後の募集周 知方法について、伺う。

問 コミュニティ助成金の詳細と、今後の募集周知方法について、伺う。

答 政策情報課長
宝くじの社会貢献広報事業として、一般コミュニティ助成事業・地域防災助成事業・青

少年健全育成助成事業など8項目あり自治会単位で申請する内容である。

募集期間が短くうまく広報等での周知ができていない所があり、今後は周知の方法を検討する。

各会計予算を補正

会計名	補正額	補正後の総額
一般会計（第3号）	75万7千円 追加	82億 964万4千円
一般会計（第4号）	9億1,684万1千円 追加	91億2,648万5千円
介護保険事業特別会計（第1号）	3,206万9千円 追加	23億9,056万9千円

議案を審議

独居老人宅に 火災報知器の設置

高齢者福祉施策として、65歳以上の一人暮らしの老人宅に、補助事業を利用して火災報知器の設置を行う。

問 該当者数とそのうち設置希望者数は。また、補助の内容は。

健康福祉課長

該当者は747世帯、希望者512名である。補助金は、工事費を除きすべて補助対象である。

財政調整積立金の 必要性を問う

問 厳しい財政運営の中で、8億2千万円余りの積立金を上積みしている。町民は国民健康保険税など高くなりすぎて払いきれなくなっている。積

み立てるより、税金等の負担軽減に回すべきではないか。

答 町長

積立金は22年度末で23億円となり、前年度より1億5千万円上積みした。積立金は下水道事業等への投資や、各種事業の財政的な裏付けとして活用を考えている。

浸出水運搬車購入の 役割を問う

問 ゴミ焼却灰等の処分地から排出される浸出水は、年間の処分に係る費用が膨大である。浸出水運搬車の購入でどうなるのか。

答 町長

ゴミ処分場から排出される排水を、処理工場（坂出市）へ移送するため、民間業者に委託してきた。これを、自前の運搬車

を購入し搬送を行い、経費の軽減を図るものである。

議案

消防車（常備）を購入

平成15年よりこれまで、処分費用約3億円、検査費用約1億円、累積約4億円もかかっている。町の重要課題であり今後も対策を検討していく。

高松市三木消防署の水槽付きポンプ自動車

が購入後17年を経過し老朽化したので、災害対応特殊水槽付ポンプ自動車に更新する。

問 消防車の耐用年数・配備は。

答 総務課長

15年程度と聞いている。高松市三木消防署に配備される。

防災倉庫等を購入

災害対策として、広さ4畳ぐらいの防災倉庫9台、救助工具セット20個、救急セット20個、発電機20台、投光機20台、折りたたみリヤカー20台、パーソナルテント72個、毛布180枚を購入する。

土地改良事業を施行

土地改良事業による水路整備を、池戸・大塚、井戸・西土居の2地区で計画している。

問 今回の改修（西土居地区）は一部底打

ち程度で済む箇所があり、その分延長したほうが良いのでは。

答 産業振興課長

水路断面（2次製品据え付け）は、みきの家、みき山荘から出る水に対する周辺整備として、統一した断面をもつて排水処理にあたる。

問 先般の台風12号による災害（大塚地区）の有無は。

答 土木建設課長

護岸の一部に崩れがあるが、今回施工する箇所であるため、今回の改修事業で改修できる。



▲西土居地区の現地調査

問 自治会組織の充実を

答 活性化の政策を構築する



一般質問
西丸 一明議員

地方分権時代を迎え地域主権の考えが浸透しているが、住民自治の核となるコミュニティづくり、いわゆる自治会組織の充実が急務である。

町長

共助の分野で大切な役割を担う自治会組織については、加入率の低下、高齢化などの問題があるが、相互扶助の機能を発揮するには、近くを助ける「近助」が大切だと考えている。

自治会長を
選任制にしては

行政の広報紙の配布が主な仕事になってお

り、およそ半年で交代している自治会が多い。自治会長の人選方法や任期の見直しを行政指導できないか。

町長

自助が基本と考えており、行政が指導することは難しい。やはりそれぞれの自治会で考えて欲しい。

職員や消防団員を
地域のリーダーに

それぞれの地域にいる役場職員や消防団員をリーダーとして、自治活動に参加するよう考えはないか。

町長

私もそのように考えている。職員にも積極的に参加するよう指導している。

行政が先頭に

各自治会が自力で動き出せるようになるまでは、行政が知恵を提供すべきではないか。

町長

行政が今すぐに指導することは難しいと考える。

百眼百考会議の中の仲間づくり部会で討議してもらっているので、その提案も含めて検討していきたい。

活動の実態は

自主防災組織が結成されているが、果たしていくつかの自主防災組織が機能しているのか危惧している。

町長

自主防災組織の結成率は、現在370自治会の中311自治会で結成されており、結成率は84%である。確かに十分ではなく今後自主防災リーダー研修会などへの参加を促し、より実効性のある組織活動の充実を図ってきたい。

雨水活用システムの活用を

「雨水は捨てれば洪水ためれば資源」といわれるが、いつも夏季の濁水に悩まされる香川県、本町でも雨水タンクの利用促進をしてはどうか。

町長

雨水や生活排水を利用することは、濁水対策だけでなく、防災対策や節水意識の醸成という観点からも重要である。雨水タンクの設置については、今後国・県をはじめ先進町の取り組み等を調査・研究していきたい。

池戸地区の
排水対策を急げ

香大医学部に行く県道小蓑前田東線の周辺の柳町・宗戸・池戸下所・宮ノ前地区では地盤が低いいため、豪雨になると、冠水や浸水

が、過去何度か起きている。

町長

亀田地区の吉田川の河川改修が予定されており、吉田川への排水がスムーズになれば池戸地区の大雨時の冠水状況が改善されることが期待される。

なお、池戸地区の排水計画については、河川整備の進捗状況を見ながら、遅れることなく検討する。



▲排水対策が急がれる池戸地区

問

障がい者施策に民間の活力・知恵を借り
福祉サービスに努めてはどうか

答

さまざまな制度を運用しながら、
障がい者福祉の推進に取り組んで行く



一般質問

村松 修議員

平成18年4月に障がい者の人たちが、その有する能力・適正に応じ、自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、「障害者自立支援法」が制定され、障がい者施策の一元化、利用者の利便性向上、就労支援の強化、安定的な財源の確保があると考えられている。

新法移行のため同法は廃止の方向で決まっていますが、少しサポートすることで自立できる障がい者もあり、本町にもグループホーム的な施設が必要と思う。民間の活力、知恵を借り、住民福祉サービスに努めるべきでないか。障がい者が高齢とな

ってもその施設に入居でき、また、施設の屋外スペースを利用し本町農業従事者が野菜等の売り場として利用すること、障がい者と住民との交流も深まり、障がい者への理解も得ると思う。

自立支援のため今まで具体的にどのようなことに取り組んできたのか。今後、障がい者の人たちが安心して暮らしていくための施策をどのようにして行くのか伺う。

町長

本町においては、障がい者の自立支援促進のため、経済的な助成面については、重

度心身障害者医療費助成、心身障害者福祉手当、児童障害福祉年金、障害者福祉タクシーといった事業に取り組んでいる。「障害者総合福祉法」の制定が現在、論議されているが、本町としては障害福祉サ

ービスや地域生活支援事業といった制度を運用しながら、民間活力や知恵を借り、障がい者が地域で安心して暮らせるよう障がい者福祉の推進に取り組んで行く。

ホームステイ事業の
今後は

夏休み期間中に一定の目標は達成できたのではないかと。今後について伺うとともに、早くボランティア家庭、また、住民に本事業の経過と今後の予定を知らせるべきと思うが、どのような方法で知らせるか伺う。

▲福祉施設での作業



町長

合わせて5回のホームステイの際にはホストファミリーの皆様にはお世話になり、心からお礼を申し上げる。また、物心両面で協力いただいた皆様、町を挙げての支援の心は十二分に伝わったものと確

信している。

今後は、被災地の動向を静かに見守りながら、本町が得意する支援を続けていきたい。本事業の経過と今後の予定については、「広報みき」で特集号を組んで周知する予定である。



▲とびっきりの笑顔(福島県大熊町スポーツ少年団との交流)

問 行財政改革取り組みへの基本姿勢は

答 行政サービスの一層の効率化をめざす



一般質問
原田 照治 議員

行財政改革取り組みへの基本姿勢について伺う。

町長

下水道事業をはじめ、将来の負担内容的に把握し、さらなる発展に向けた安定的な財政運営を確保することが重要である。

今後は、費用対効果等を十分考慮した上で、行政サービスのより一層の効率化をめざして行政改革を推進していく。

地域主権の時代とは

今まさに地方が責任を持って行政課題に取

り組む地域主権の時代に入っている。

国の政策立案課題に今こそ地方が「物申す」時代であると思うが、見解を伺う。

町長

住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担い、地域の諸課題に取り組むことが地域主権の本旨であると考える。

そのためには、財源確保はもとより、権限委譲などさまざまな分野で機会を捉えて国に向かって意見や要望を強く発信する。

獅子舞フェスタの中止を問う

本年の獅子舞フェスタの中止は、百眼百考会議において決定したと聞いたが、その経緯を問う。

町長

百眼百考会議のにぎわいづくり部会より①企画立案にプロデューサーを採用する②会場を町中心部へ変更する③開催時



▲大獅子が舞う獅子舞フェスタ(平成22年)

期は例年通りとする
④実行委員会に公募委員を増やす等の提言をいただいた。

これを受けて実施スケジュール等を検討したが、開催には少なくとも6カ月程度の準備期間が必要であり、時間が足りないので、やむなく中止することにした。

改正介護保険関連法が成立

このほど24時間対応の巡回型訪問サービスの創設などを柱とした改正介護保険関連法が成立した。
本町における導入への対応はどうなっているのか。

町長

改正法の施行が来年の4月であることから、事業者が参入するにはどれだけのニーズがあるかなどの課題が

残されており、不透明な状況である。

介護保険料軽減策を

介護支援のボランティアを行った高齢者にポイントを与える「介護支援のボランティア制度」が平成19年にスタートしている。

本町への導入を提案するが、町長の所見を問う。

町長

ポイントを有効に使うって介護保険料の軽減策の一環とすることも一考と思うが、他市町の取り組み状況も参考にしながら研究する。

※百眼百考会議とは

「第5次三木町振興計画」がめざす方向性や目標を達成するために必要な施策について、町民の意見や考え方を反映したまちづくりを行うために設置された。平成23年6月に設置され、6つの部会からなる。

問 新川河川改修事業に大きな進展があったようだが

答 事業のスタートが切れることとなった



一般質問
十川 治郎 議員

住吉堰の可動化は。

町長

住吉堰水利組合の事情があり改修の理解が得られなかったが、去る8月9日の地元説明会で、最終的に町のトップである私から説明、お願いをし、将来対策について検討委員会を設置することで理解を得られた。

今後、事業の進捗に鋭意努力をする。

台風12号への対応を検証する中で、防災対応の更なる強化を訴える。町の時間ごとの対応は。

総務課長

9月2日

(13時15分)水防本部設置。

水防本部は、町長陣頭指揮のもと、副町長、教育長、関係課長、消防団長、消防署で構成。

(13時24分)三木町に大雨洪水・暴風警報発令。

(17時7分)第2回水防本部会議開催。避難所の確認をする。

住民関連課が避難所の開設準備にかかる。

(18時)朝倉川、鍛冶川の氾濫を確認。

朝倉本村地区、鹿庭出水地区に避難勧告発令。避難所開設。

(20時20分)三木町に

土砂災害警戒情報発令。

(23時10分)町内全域に避難勧告発令。

17カ所の避難所を新たに開設。防災ラジオ等で全町に周知。

(24時)第3回水防本部会議。

避難状況等確認。

9月3日

(10時)第4回水防本部会議。

(10時15分)土砂災害警戒情報解除。

(18時45分)全町の避難勧告解除。

(21時20分)大雨洪水警報解除。

水防本部解散。

三木町全域への避難勧告は適切だったのか。

安全な地域もあったのでは。避難勧告の発令基準を問う。

総務課長

各地区消防団の報告によって河川の水位上昇を危険と判断。また、台風の進路その他を総合的に勘案し、水防本部で決定した。全町避難勧告は適切な判断だったと思う。

紀伊半島でも避難勧告が発令されないまま被害にあった地域もある。難しい問題だが、町の避難勧告に対する町民の感覚麻痺が危惧される。検討をお願いする。

自主防災活動における事故発生時の補償制度はあるのか。

町長

本町では、訓練時の補償制度には加入している。(事前に三木消防署へ訓練計画書などを提出し承認を受ける必要あり)

災害発生時の活動における補償制度はないようである。

台風12号による堤防破損箇所の補修予定について問う。

町長

水上橋下流左岸側については、フトンかごによる仮復旧をし(後年新川河川改修事業による工事)、上流部は、本復旧と仮復旧の場合がある。

水上橋下流左岸のよ

うな堤防破損箇所(写真)が民家隣接地で発生した場合、建物の倒壊につながる。新川改修事業のさらなる進捗を県に働きかけるよう町長に要望する。



▲台風12号による破損箇所(水上橋下流左岸)

その他の質問
○第5次三木町振興計画のまちづくりへの生かし方。
○振興計画の産業振興課の施策への活かし方
○来年の獅子舞フェスタについて

問 町内全域の環境を

保全する努力を

答 理解が得られるよう最大限努力していく



一般質問
渡辺 達実 議員

先日大きく報道された三木町浄化センター設置反対の署名、陳情。

町長に対して出された設置反対の署名について、どのような対応を検討しているのか。

環境整備をしていくうえで、住民のみならずの理解と協力は重要。下水道事業はまさに、住民のみならずの理解と協力なくして、成り立たない事業だと思ふ。

町長

処理方式の変更や、農業集落排水事業の公共下水道への接続について、施設面積が少なくなることで、ほ場整備の地盤高を現状で

実施することなど、自治会や地権者に説明をしてきた。

今後、今までより環境が悪くならないことを、丁寧に説明し、理解が得られるよう最大限の努力をしていく。

子育て支援の充実を

乳幼児医療費助成の対象者の年齢を、中学校卒業まで引き上げてほしい。

香川県内でも、まんのう町や琴平町など西讃地区ではずいぶんと施策が進んでおり、東讃地区とは状況が違っている。

将来を担う子どもたち

ちの健康を守るため検討を求める。

町長

現時点では難しい。県に対する要望として、支給対象年齢の引き上げを申し入れている。

子育て支援券の交付対象者の拡大を

昨年度まで、実施されて好評だった支援券制度。若い子育て世代を応援するとともに、

地元の商工業者を活性化させる施策として、交付対象者の見直しを求める。

ばらまき4Kとして民主党政権が攻撃を受

け、子ども手当が児童手当に逆戻りし、来年度からは廃止することさえ議論がされている。ぜひとも子育て支援制度の見直しを求める。

町長

廃止した予算は、放課後児童クラブの拡充等、子育て支援充実のための経費として充当している。真の子育て支援策の拡充を図るため、いっそう努力していく。



自然エネルギーを活用した取組みの検討

大震災・原子力発電所事故から学ぶことはたくさんあると思う。町長の英断でいち早く震災復興支援に取り組み、全国の先駆けとなった被災児童の救援事業は大きな成果となり町民としても誇りに感じている人は多い。復興支援に向けたさまざまな取組みを、今後とも引き続き取り組んでいくことを願う。

福島県の東京電力原子力発電所の事故は、悲惨な状況が続いている。太陽光発電設置に対する補助制度の創設、公共施設での太陽光発電等の自然エネルギーを活用した取組みの検討を訴える。原子力発電に頼る今の施策から、大きく転

換する時期が差し迫っていると思う。

町長

他市町の動向を参考にしながら、太陽光発電設置についての補助制度の創設を検討していく。

公共施設への導入は考えておらず、電気の省力化に取り組みしていく。



▲屋根に設置された太陽光発電

問 自主防災組織の必要性は

答 自主防災の実働力の向上を図っている



一般質問
高藤 周介 議員

大がかりな災害が起きた時に、役場や消防の世話にならずに対処する自主防災組織の必要性は。

町長

三木町の65歳以上の人口比率は24・2%となっている。

地域包括支援セン

町長
有識者を招き、「地域防災リーダー育成セミナー」を開催し、防災リーダーを対象とした「自主防災組織リーダー研修会」を開催して、実働力の向上をはかっている。

ターを中心として高齢者が健康でいられるように、予防事業に力を入れていきたい。

第4期高齢者保健福祉計画を見直し、介護・予防・医療・生活支援・住まいの五つのサービスを一体的に提供していく「地域包括ケア」の考え方に基つき、その上に適切な介護保険料やサービスの向上、予防事業の充実を図り、よりよい第5期高齢者保健福祉計画を協議し策定していく方向である。

高齢者福祉の具体策は

高齢者福祉に対する総合的かつ具体的な考えは。

三木町の第5期高齢者保健福祉計画とは。

障害者福祉の具体策は

障害福祉計画における推進状況は。

町長

障害者自立支援法の趣旨に基づき、就労支援の強化、障がい者が必要とするサービスを、計画的に数値目標で設定し、障がい者が安心して自立した生活を送れるまちづくりを推進している。

今年度は、計画の見直し年度であり、策定委員会において見直す。

少子化対策の具体策は

ファミリー・サポートセンター事業に取り組

んでいるが、具体的な対策は。

町長

ファミリー・サポートセンターは、地域において育児や介護の援助を受けた人で行いたい人が会員になり、育児や介護について助け合う会員組織である。現在は高松と連携

しているが、将来は三木町にもファミリー・サポートセンターを造る方向に進めたい。

町長

産婦人科病院を、誘致する計画はないが、将来的には総合的な子供を産み育てる施設を、造る方向に進みたい。

妊婦健康診査の健診補助や、子供が誕生した場合には、本町独

税徴収率の向上、滞納金の減少対策は

自で、子育て支援券の交付や、乳幼児の医療費助成・育児支援事業を行っている。

直接税の、調定額・徴収率・滞納金の状況はどうなっているのか。徴収率のアップ、滞納金の減少対策は。

町長

滞納者には納税計画を作り自主納付の推進を図り、徴収の強化を推進している。

自主納付を守らない人には財産・給与等の差し押さえ、また電話・戸別自宅訪問も実施している。さらに、香川滞納整理推進機構と連携して、職員徴収技術を高め、滞納処分に対応し、徴収率の向上を、図っている。



▲少子化対策は

問 町長就任一年を振り返って

答 公約の多くができたと思っている



一般質問
香西 義典 議員

前町政の残した課題をどのように認識し、新町政のスタートを切ったのか。また、今の三木町の現状をどう分析・評価しているのか。

町長

数多くの重要課題が未解決、未処理のままの引き継ぎであった。中でも最重要課題の下水道処理事業は待ったなしの解決に迫られていた中で、この取り組みに全精力を注いできた。現状の分析・評価は、思った以上の結果を残しつつある。

公約の実現状況は。

町長

一部結果が出ていないものもあるが、学童保育を6年生まで枠の拡大、幼少中のエアコンの設置等、多くは実現できたと思う。

防災・危機管理の取り組みは

近い将来発生が予測される東南海・南海地震について、被害の予測など危機感をもって防災計画の見直しをする必要があると思うが。

町長

東日本大震災での教訓や東海、東南海、南海地震などの

町長

運動地震を想定した国の防災計画の見直しの動きや、県域防災計画の見直しを踏まえ、町独自の地形的な特性に応じた地域防災計画の見直しを行いたい。

役割分担の認識と防災基本条例の必要性は。

地域防災計画見直しを図るとともに、他市町の動向を踏まえた中で、防災基本条例の必要性を考えたい。

町長

危機意識や危機管理についての取り組みが

町長

なされているか。大規模災害発生時においては、地域の防災力（共助）が重要と認識しており、自主防災組織の結成に努めている。

介護保険法の改正と今後の取り組みは

今後の介護保険事業計画策定までのスケジュール、予定は。

町長

11月に介護保険料推計値について、翌年1月には中間報告素案について、審議を行う。

2月に中間報告素案の修正を行い、最終確認を行う予定である。

平成24年4月からの介護保険料の月額基準額は、6000円程度と想定されるがいか

健康福祉課長

今月末予定の「高齢者保健福祉計画策定検討委員会」の場で審議し、来年2月を目的に決定する。

先般厚生労働省が

発表した全国平均の次期保険料は、月額4160円から10000円程度上昇するものと試算されている。

みき山荘の増床計画は。

健康福祉課長

みき山荘に

において40床の増床が計画されている。来年3月末までには起工して、12月には、新たに開所する予定と聞いている。

白山山荘・みき山荘の入所待機者数は。

健康福祉課長

8月末現在、白山山荘179人、みき山荘135人である（重複分含む）。



▲40床の増床が待たれる「みき山荘」

追跡 第20回

レポート

どう
なっとんは？



保険証のカード化を

「健康保険法施行規則」の改正により、保険証のカード化を急げ。

平成17年3月定例議会 一般質問



町長答弁

内部機関と協議を行い、整えば実施したい。

こうなりました

国民健康保険 被保険者証		有効期限 平成24年 3月31日
記号 氏名	香川17 国保 太郎	番号 0123456 性別 男
生年月日	平成23年 4月 1日	
世帯主氏名	国保 一郎	
住所	香川県木田郡三木町大字氷上 310番地	
資格取得年月日	平成23年 4月 1日	
交付年月日	平成23年 4月 1日	
保険者番号	370627	サンプル
香川県木田郡三木町大字氷上310番地		保険者名 三木町

平成23年4月から実施。

福祉タクシー利用の見直しは

重度障害者福祉タクシー助成券の使用枚数には制限があり、利用の勝手が悪く見直してほしい。

平成23年3月定例議会 一般質問



町長答弁

有効活用が図れるよう検討する。

こうなりました

重度障害者福祉タクシー助成券		重度障害者福祉タクシー助成券	
助成額	500円	助成券番号	第 号
有効期限	平成24年 3月31日	手帳番号	香川県 第 号
<small>※タクシー利用1回につき1枚使用できます。 ※多田タクシー・三木タクシー・いらはタクシー・三福タクシーしを併用できません。</small>	発行者 三木町社会福祉協議会 	氏名	
乗車日	平成 年 月 日	有効期限	平成24年 3月31日
取扱業者	運転者	集表社	発行年月日 平成 年 月 日

これまでは1回の乗車につき1枚(500円)限りの使用だったが、9月1日から複数枚使用できるようになった。

(おわびと訂正) 議会だより136号15ページ第19回追跡レポート中、福祉行政の充実をにけるこうなりました欄「平成22年8月より」は「平成22年4月より」の誤りでした。おわびして訂正いたします。

委員会レポート

総務建設

8月開会

平成23年度
農道舗装計画決まる

本年度は、コンクリート舗装51集落、オーバレイ舗装24集落を計画している。

これら農道舗装の事業費は合計666万円余である。

問 前年度比、採択数の増減は



▲農道の現地調査

答 土木建設課長

コンクリート舗装は13集落の増、オーバレイ舗装は2集落の増である。

問 アスファルト舗装の新規路線採択の説明を。

答 土木建設課長

オーバレイ舗装は特例的な措置であり、原材料支給の採択基準においては、生コンの支給が原則である。

教育民生

8月開会

一般廃棄物最終処分場（津柳地区）の浸出水の状況についての報告があった。

問 浸出水の状況は。

答 環境保全課長

処分場内の浸出水については、依然として一定数値の塩化物イオンが検出されており、県の廃棄物対策課からは、この数値では今ままでどおり搬出処理が適切との指導を受けている。

場内最終処分場および調整池から採取した浸出水は、町内業者に委託し県内処理場へ輸送。その量は年間10トン車192車分である。

問 処理方法の検討は進んでいるか。

答 町長

この問題の解決について

ては、全職員をあげて案を練った。処理方法についての抜本的解決案が近く出る。結論が出た時点で、議会に報告をする。

（その他）

墓地の用途廃止および所管換えについての報告があった。

行財政改革

8月開会

議会基本条例が全国的に制定されつつあり、本町も議会基本条例が必要ではないかという観点から調査に入り、協議を重ねた上で、①一般質問の

一問一答方式
②模擬議会

③本会議場の対面式

④常任委員会についての閉会中の所管事務調査の改革、の4項目をピックアップして、手探り状態ではあるが最終目標を議会基本条例制定としてできることからすることとした。



▲一般廃棄物最終処分場（津柳地区）

下水道推進

8月開会

問 農業集落排水事業井上南部地区の状況を問う。

答 上下水道課長

今年度が計画期間の最終年度であり、事業期間の延長手続きをとり、平成25年度より、公共下水道処理場への接続工事を実施したい。

6月18日に推進協議会総代会が開催され、処理場を1カ所にまとめること、処理方法を膜ろ過方式に変更することなど、承認を得た。

問 農業集落排水事業三木東地区の状況を問う。

答 上下水道課長

処理場を数か所建設するより、1カ所に集約した方が経済的

であるとして、公共下水道事業の処理場への接続を検討している。6月19日に推進協議会総代会が開催され、処理場および処理方式の変更を検討することの承認を得た。

問 公共下水道事業の状況を問う。

答 上下水道課長

処理場周辺住民の方や新川下流の土地改良区などの理解が得られていない状況にあり、誠意をもって

説明している。処理方式の変更や三木東地区の接続などの検討を行う認可変更業務を進めている。年内には見直し案を提示したい。



▲(仮称)三木浄化センター(案)の模型

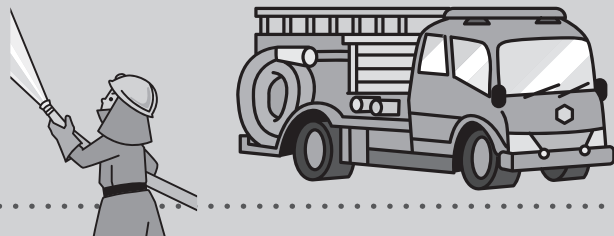


▲町公共用地維持管理工事により整地された処理場予定地

契約しました

第3回 定例議会(9月7日可決)

工事名 平成23年度災害対応水槽付特殊ポンプ自動車(常備)更新事業
契約方法 指名競争入札
指名業者 5社
契約金額 76,755,000円
契約の相手 株式会社岩本商会高松支店



工事名 平成23年度防災倉庫等購入
契約方法 指名競争入札
指名業者 5社
契約金額 23,621,850円
契約の相手 ミドリ安全高松株式会社



22年度決算まとまる

決算の状況

		予算現額	決算額
一般会計	歳入	99億2,432万5,000円	97億9,316万6,578円
	歳出		91億771万8,890円
国民健康保険 事業特別会計	歳入	29億6,738万円	30億3,468万1,727円
	歳出		28億6,142万5,131円
老人保健 特別会計	歳入	150万円	141万2,316円
	歳出		7万4,928円
簡易水道事業 特別会計	歳入	4,960万円	4,958万5,440円
	歳出		4,864万1,429円
農業集落排水 事業特別会計	歳入	9,987万5,000円	1億210万1,208円
	歳出		9,163万7,293円
介護保険事業 特別会計	歳入	23億4,764万4,000円	23億290万5,870円
	歳出		22億7,083万5,513円
公共下水道事業 特別会計	歳入	1億7,272万1,000円	1億5,411万2,570円
	歳出		1億2,733万5,761円
介護予防サービス 事業特別会計	歳入	2,318万3,000円	2,384万5,515円
	歳出		2,049万1,156円
後期高齢者医療 事業特別会計	歳入	3億203万4,000円	3億298万2,007円
	歳出		2億9,788万7,438円
水道事業会計	収益的收入	4億9,551万6,000円	5億1,278万6,484円
	収益の支出	4億9,119万2,000円	4億6,436万5,098円
	資本的收入	8,687万4,000円	7,580万2,650円
	資本の支出	3億1,460万3,000円	2億8,959万6,436円

平成22年度の一般会計、各特別会計および水道事業会計の決算がまとまり、監査委員の意見書とともに、各決算書が9月7日の本会議に提出された。これを受け、決算特別委員会を設置した。10月中旬より本委員会にて、各予算が適正に執行されたかどうか、また、費用対効果などについて審査する。



西丸一明 委員長



香西義典 副委員長

委員 高藤 周介
委員 十川 治郎
委員 藤井 匠
委員 村松 修
委員 渡辺 達実

決算特別委員 決まる

請願・陳情のゆくえ

平成23年 陳情第1号 (平成23年7月15日 受付)

高齢者のはり・きゅう・マッサージ治療に対する助成金制度確立を求める要望書

教育民生
常任委員会へ付託

高松市上福岡町2023-8 社団法人 香川県鍼灸マッサージ師会 会長 山本 英介
高松市福岡町3-24-7 社団法人 香川県鍼灸師会 会長 佐々木 勝
三木町池戸2851-1 柴田鍼灸治療院 院長 柴田 芳博

平成23年 陳情第2号 (平成23年8月24日 受付)

三木浄化センター(仮称)設置反対に関する陳情

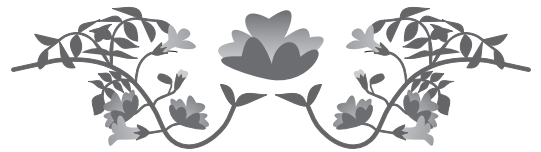
不採択

三木町大字池戸字鍋淵 鍋淵自治会長 伊藤 光夫 他84名

議 会 の 動 き

- 7月25日 香川県広報発行町議会連絡協議会定例会及び研修会
- 8月17日 総務建設常任委員会
- 18日 教育民生常任委員会
- 25日 行財政改革推進特別委員会
- 26日 下水道推進特別委員会
- 31日 議会運営委員会
- 9月7日 第3回定例議会開会(議案の上程、質疑)
議会広報編集委員会
- 8日 総務建設常任委員会
- 12日 本会議(一般質問)
- 14日 本会議(議案の質疑、討論、採決、追加議案の上程、採決)閉会
- 29日 議会広報編集委員会
- 10月4日 議会広報編集委員会
- 14日 議会広報編集委員会

人 事



初就任
大字氷上(61歳)

教育委員会委員
小西久典氏の任命に同意

今期定例議会の傍聴者は、延べ20人でした。次の定例議会は、12月中旬の予定です。

○印は出席 ○は半欠 ×は欠席

議員氏名	古市 弘	香西 茂知	石井 定夫	筒井 米市	原田 照治	桑井 明人	西丸 一明	白井 正治	香西 義典	三木 和則	渡辺 達実	富田 修司	村松 修	藤井 匠	十川 治郎	高藤 周介
9/7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9/12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9/14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第3回定例議会(9月)
議員出欠表
(本会議のみ)

元気なグループ紹介

はまなす会

代表 柴田芳博

はまなす会は、平成14年頃から池戸商工センターを拠点に活動するカラオケ同好会です。会の前身は池戸カラオケ同好会。毎週1回(水)午後7時～9時までの練習を基本に、好きな歌の上達をめざしています。

主な活動内容は、春・秋の三木町カラオケ同好会の大会へ参加。秋の三木町文化祭、池戸商工センター芸能フェスティバルへの参加など、活発な活動をしてい

す。その他、会員個々の活動も活発で、老人ホームやデイサービスへの訪問活動に取り組んでいます。会員も、自営業者、サラリーマン、主婦、年金生活者などさまざま、いろいろな人生経験を交流し、相互理解を深めながら交流を図っています。

地域の商店街が郊外へ散出する中、地元の賑わいを取り戻そ

◀はまなす会のメンバー



議員会研修に参加

8月2日、トレスタ白山で第11回四国土砂防災ネットワーク議員連盟定期総会・記念講演が開催され、議員会研修を兼ねて参加した。

当日の講師は、国土交通省・山口真司氏ほか、(社)全国治水砂防協会・亀江幸二氏、国土交通省四国山地砂防事務所・桜井亘氏であり、東日本大震災の被災状況を中心とした講演が行われた。

お気軽に議会を傍聴しませんか

本会議の傍聴人の定員は、30人です。当日の午前8時30分で、傍聴希望者が30人を超える場合は、抽選を行います。

●お問い合わせは、議会事務局へ
 ☎(087) 891-3311
 次の定例議会は、12月中旬の予定です。

編集を

終えて



新しく野田首相が就任された。国民の期待は、東日本大震災の復興、福島原子力発電所事故の早期の解決。そして、政治を安定させ、国民を幸せなくらしに導くこと。

今年も秋の実りは訪れ、黄金色に実った稲穂が美しい。台風12号、15号が残した被害の爪あとは、厳しい自然の力を見せている。

みんなの力を寄せ合い、住みよい町づくりを進めていきたい。

(渡辺達実)